

木崎中だより	5号	平成29年8月29日(火) さいたま市立木崎中学校 048(886)4302
--------	----	--

明日につながる大切な思い出

校長 大谷 慎也

記録的な大雨や猛暑の日々が続く中、本日2学期の始業式を生徒も職員も元気に迎えられたことをとてもうれしく思います。夏季休業中、全国・関東中学校体育大会をはじめ、県学校総合体育大会や夏季体育大会、各コンクールや発表会等で木崎中生が活躍し、栄光の軌跡を残しました。また、学習会やチャレンジスクール、ボランティア活動等で、自分自身で決めた一つの目標に向かって取り組んだ生徒の姿もたくさん目にしました。浮かべた満面の笑みや流した涙、そして、全力を尽くした満足感は、思い出となり、やがて将来の自分づくりの糧となることでしょう。生徒を陰ながら支えてくださった保護者・地域の皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。

さて、2学期は、一人ひとりが自分自身を向上させ、充実させる時期です。「体育祭等の行事で集団のために協力し、自分の役割を果たす」、また、「学力を高め、自らの進路について熟慮する」ときです。そのためには、日々目の前にある小さな目標に全力で取り組み、一日を振り返り、「明日はこうしよう。」と考えながら生活することが改めて重要となります。その積み重ねが、自身の向上や充実につながります。

中学校時代の思い出のひとつに、3年生のときの体育祭があります。当時、母校の体育祭では、実行委員が学年種目や応援合戦について企画し、準備や運営にあたっていました。私は、副実行委員長として仲間と全体の運営や学年種目の原案づくりに奔走し、会議を開いては担当の先生に説明して、やっとの思いで認められ、練習に入りました。しかし、練習に入ってもうまくいきません。放課後、先生からの厳しい指導があり、暗くなった帰り道、街灯の下で仲間と明日はどう取り組むかについて議論する日々が続きました。体育祭当日、朝6時過ぎに登校し、職員室に泊まっていた先生方に母が作った弁当の重箱を届けに行きました。私に担当の先生がこう言いました。「俺な、ゆうべ夢を見たぞ。どの学年も盛り上がっていたな、学年種目。体育祭、大成功だったよ。今日は、頼んだぞ。」その言葉にプレッシャーを感じ、ますます自信がなくなりました。いよいよ体育祭が始まり、競技も応援合戦も順調に進行し、午後に学年種目やリレー等の得点の高い競技が続きました。そして、閉会式を迎えるにあたり、最後に「副実行委員長の言葉」がありました。朝礼台に登り、私は緊張のため、遠くを見ながら話し始めました。すると、耳にすすり泣く声が入りました。見れば、男女問わず涙を流す3年生の姿。私は胸が熱くなり、声をつまらせながら話し終えました。閉会式が終了しても、その場を離れることなく生徒も先生も皆で成功を讃え合い、泣きました。私は、この時の仲間や先生が大好きです。この時の自分が大好きです。この思い出は、今の自分を支えています。

2学期は、1年間の中で最も授業日数の多い学期です。学業の改善・充実ができるように、個々の目標や学年・学級の目標への達成状況をしっかりと見直し、常に向上心を持って努力を積み重ね、大きな成果が得られることを期待しています。保護者の皆様、地域の皆様、2学期も御支援と御協力をお願い申し上げます。